

博士論文作成要領  
(令和8年度)

産業医科大学 大学院医学研究科  
産業衛生学専攻

## 1. 博士論文作成基本事項

- 1) 原則として、学術雑誌の原著論文の体裁とするが、ページ数制限は設けない。
- 2) 和文または英文で作成する。
- 3) 論文の作成にあたっては、指導教員の指導のもとに行うこと。

## 2. 博士論文の構成

- 1) 表紙
- 2) 論文要旨（様式第2号）
- 3) 目次（章・項・節立ては本文と揃える）
- 4) 本文（例．緒論（はじめに）、目的、方法、結果、考察、結論（まとめ）、謝辞、引用文献、付録）

本文の章立ては様式に従い、構成や章の語句等は変更しない。

- 5) 複数の研究論文を博士論文としてまとめる場合は、以下に従う。

「緒論（はじめに）」には、項立てして『先行研究のまとめ（レビュー）』と『目的』を記述する。複数の研究論文を博士論文としてまとめる場合には、主要研究内容を主軸に置き記述する。主要研究が並列で複数ある場合には、『目的』の項内に節立てして各研究の目的を明記する。その後の「方法」、「結果」の章においても、節立てした目的に沿ってそれぞれの章に項立てし、方法と結果を記述する。「考察」および「結論（まとめ）」は、複数の研究で得られた結果をまとめて論述する。なお、査読付きの論文で書ききれなかった研究成果は、「緒論（はじめに）」の「先行研究」の項にまとめる（プレ研究として扱う）。

- 6) 研究方法や結果の理解のための資料（アンケート調査用紙等）や一般常識に準ずる科学的情報（専門用語や単位の説明、機器の原理等）は、「付録」として加える。
- 7) 「付録」に収める資料等は、「付録」の最初にリストをつけてまとめる。

## 3. 論文の原稿様式（テンプレート参照のこと）

- 1) 文書作成ソフトで作成する。
- 2) A4判の用紙を用いる。本文は原則縦置き・横書きとし、段組なし。印字は黒、片面印刷のうえ左上をダブルクリップで綴じる。
- 3) 余白は上下左右25mmとし、和文の場合は全角、MS明朝体、10.5ポイント、英文の場合は半角、Times New Roman、10.5ポイントで印字する。行間は1行（31行/頁）とし、和文書きの場合も英数字は英文書きに準ずる。
- 4) 下余白中央部分（下端から5mm）に頁番号を付す。本文の最初の頁より1ページとし、引

用文献の最後のページを最終ページとする。ページ番号スタイルは、数字の両側にハイフンをつける。例：( -\*- )

- 5) 目次が複数ページに亘る場合は、上記 4)に準じてページ番号を付す。ただし、ハイフンなしで小文字ローマ数字 ( i , ii . . . ) とする。

#### 4. 本文の作成

##### 1) 原著論文の条件

「原著論文は、その分野の専門の研究者が読めば、論文の中に与えてある情報だけにもとづいて (i)著者の実験\*を追試して、著者の示した実験誤差の範囲内で、同じ結果に到達することができるように、または (ii)著者の観察、計算または演繹を繰り返して著者の発見の当否を判定できるように、書かなければならない。」(木下是雄 (1981) : 理科系の作文技術。中央公論社、東京 p7) 注\* : 調査研究も同じ

したがって、博士論文は投稿論文とは別個のものとして改めて審査を受ける単著論文とし、投稿論文を単純に翻訳したものや、投稿論文の図表をそのまま掲載することは避ける。なお、博士論文の研究結果について、投稿論文には提示がない新たな分析結果は、必ずしも求めないこととする。また、博士論文は本専攻での研究の集大成として、関連領域の先行研究のレビューを踏まえてまとめる。

- 2) 考察の記載においては、事実 (例. 統計的有意差の認められたもの) か著者の推論・意見かが明確に区別できるように記載しなければならない。また、研究の内容や結果の学術的、社会的意義、今後の発展性に対応する産業医学・産業保健への実践についても触れる。
- 3) 論文の表現は冗長にならないように心掛ける。
- 4) 和文の場合は、現代仮名遣いに従い、原則として常用漢字を用いる。
- 5) 数字は算用数字を用い、単位や符号は国際単位系(SI)を用いる。
- 6) 句読点はコンマ「,」およびピリオド「.」を用いる。
- 7) 行頭に句読点、拗音、促音など下付き文字が来ないように、文章、語句を注意して書く。
- 8) 成語 (一般、同一、数百名など) を除き、数字はアラビア数字を用いる。
- 9) 外来語はカタカナで書く。外国人名および訳が一般化されていない事象や物質名は、英語表記とする。
- 10) 慣用化されていない略語や略字を用いる場合は、文中の初出時に括弧内にフルスペルと略記を記載する (例. 状態・特性不安尺度 (State - Trait Anxiety Inventory: STAI と略))。
- 11) 利益相反の有無を記載する。

- 12) 謝辞は必要最小限とし、原則として研究協力者および指導教員に対する謝辞のみとする(例. 本論文の作成にあたり、アンケート調査に御協力いただきました〇〇の皆様およびご指導をいただきました〇〇氏、〇〇氏に感謝いたします)。

## 5. 引用文献の記載 (産業医科大学雑誌に準ずる)

- 1) 文献は本文中において引用の順にカッコ[ ]内に番号で記入し、文献リストに番号をつけて記載する。例. [7], [11,12], [11-13,17]
- 2) 雑誌名は原則として略記を使う。
- 3) 引用文献リストは、以下を参考にして記載し、本文より行間を小さくする (行間 12pt)。
- 4) 共著者は、和文の場合はコンマ「,」、英文の場合はコンマ「,」とアンパサント「&」(最終著者の前)で区切り、10名までは全員併記、11名以上の場合は最初の3名を記載し、以下「他」(外国語文献の場合は「*et al*」)と略す。洋書の編者は「*ed*」と略記する。ただし、編者が複数のときは「*eds*」と略す。

## 1. 和文文献 (年号等を括弧は全角を用いる)

### 学術雑誌

著者名 (発行年) : 表題. 雑誌名 巻 (号) [巻の記載がないものは号のみを記載する] : 始頁-終頁  
山田太郎, 中村次郎, 鈴木三郎, 他 (1988) : 産業医学領域における.... 産業医学研究 12 (1): 103-114

### 単行本

著者名 (発行年) : 表題. 書名. 巻数. 版数. 発行所, 発行地 pp 引用始頁-終頁  
久保真人 (2004) : バーンアウトの心理学. 燃え尽き症候群とは. 初版. サイエンス社, 東京 pp24-29

### 団体による書 (単行本と同じ)

厚生労働省大臣官房統計情報部 (2008) : 平成 18 年度地域保健・老人保健事業報告 (老人保健編). 財団法人厚生統計協会, 東京 pp 500-531

### 訳書

原著者名 (発行年) : 書名. 巻数. 版数. 発行所, 発行地. 訳者名 (発行年), 書名. 巻数. 版数. (著者名). 発行所, 発行地 pp 引用始頁-終頁  
Friedman M & Rosenman RH (1974): *Type A/ Behavior and Your Heart*. 1st edition. Alfred A. Knopf Inc., New York. 河野友信監修, 新里里春訳 (1993), タイプ A 性格と心臓病. 創元社, 大阪 p65

### インターネット

著者名 (発行年) : 表題. 発行所, 発行地 URL (アクセスした年月日)  
厚生労働省 (2004) : がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針検診. 老老発 第 0427001.  
厚生労働省, 東京 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/04/s0427-2.html> (Accessed May 2, 2014)

## 2. 欧文文献 (APA 5th を基本とし、産業医科大学雑誌のフォーマットに合わせる。括弧は半角を用いる)

**一般形式** (ジャーナルおよび本のタイトルは各単語の頭文字を大文字とする)

Author AA, Author BB & Author CC (Year): Title of article. Title of Journal xx (XX): xxx-xxx

#### 学術雑誌・単著

Turner RA (2007): Coaching and consulting in multicultural contexts. *J Consult Psychol* 59 (4): 241-243

#### 学術雑誌・著者 2-10 名 (全員記載)

Brainerd CJ, Reyna VF, Tein J, Coatsworth D, Lengua L, Brainerd CJ, Wright R & Mojardin AH (2003):  
Recollection rejection: False-memory editing in children and adults. *Psychol Rev* 110 (4): 762-784

#### 学術雑誌・著者 11 名以上 (3 名まで併記し, 以下は *et al* と略す)

Wolchik SA, West SG, Sandler IN, et al. (2000): An experimental evaluation of theory-based mother and  
mother-child programs for children of divorce. *J Consult Clin Psychol* 68 (5): 843-856

#### 団体による書籍 (版数付き)

American Psychiatric Association. (1994): *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders* (4th ed.).  
Washington, DC: Author.

#### 匿名

Guidelines and application form for directors, 1990 summer seminar for school teachers. (1988):  
Washington, DC: National Endowment for the Humanities.

#### 本全般・単著

Nagel PC (1992): *The Lees of Virginia: Seven generations of an American family*. Oxford University Press,  
New York

#### 本の章 (編者が複数のときは eds とする)

Burghardt GM (1984): On the origins of play. *In* *Play in Animals and Humans*. (Smith PK, ed). Basil  
Blackwell, Oxford, England pp 5-42

### ONLINE JOURNALS, MAGAZINES, NEWSPAPERS

#### 一般書式

Author AA, Author BB & Author CC (Year): Title of article. Title of Journal xx (XX): xxx-xxx.  
doi:xxxxxxxxxx

#### Online Database からの引用

URL アドレスではなく, DOI (Digital Object Identifier)を用いる

Senior B & Swailes S (2007): Inside management teams: Developing a teamwork survey instrument.  
*British Journal of Management* 18 (2): 138-153. doi:10.1111 /j.1467-8551.2006.00507.x

DOI が見つからない場合は database 名を用いる

Gorman A (2007, June 25): A twisted route to gain legal status for adoptive children. *Los Angeles Times*,  
p. B8. Retrieved from ProQuest Los Angeles Times database.

#### 電子ジャーナル website からの論文

URL は e-journal websites で得られる (database からではない) . 長い URL は途中で改行を入れ  
る. コピーの際はハイパーリンクを削除し, 青いアンダーラインを取る

Ray O (2004). How the mind hurts and heals the body. *American Psychologist* 59: 29-40. Retrieved from  
<http://www.apa.org/journals/releases/amp59129.pdf>

Lodewijkx HFM (2001, May 23). Individual-group continuity in cooperation and competition under  
varying communication conditions. *Current Issues in Social Psychology* 6 (12): 166-182. Retrieved from  
<http://www.uiowa.edu/~grpproc/crisp/crisp.6.12.htm>

#### その他の ONLINE 情報

##### 一般書式

Author AA (Year). Title of work. Retrieved from web address

#### Online Report

NAACP (2005, April 29): NAACP supports Congressional fight to end predatory lending. Retrieved from [http://www.naacp.org/inc/docs/washington/109/109\\_aa-2005-04-28.pdf](http://www.naacp.org/inc/docs/washington/109/109_aa-2005-04-28.pdf)

**Online Report** (著者・日付なし)

GVU's 10th WWW user survey. (n.d.). Retrieved August 19, 2005, from [http://www.cc.gatech.edu/user\\_surveys/survey-1998-10/](http://www.cc.gatech.edu/user_surveys/survey-1998-10/)

### 括弧つきで Web Sites の引用

website 全体の引用で, site 内の特定の文章ではない場合はテキスト内に URL を記載すればよく, 参考文献リストへ記載しなくてよい.

例) Kidpsych is an excellent Web site for young children (<http://www.kidpsych.org>).

## 6. 図, 表および添付資料について

- 1) 図, 表は本文の該当する場所 (の近傍) に挿入する. その際, 原則として図, 表中のフォントは本文と同一とし, 図, 表の挿入時に縮小する場合は, フォントサイズが小さくならないように判読性に注意する. また, 文書作成ソフトの自動調整機能によって表や図が分断されないように, 表のサイズやレイアウトを調整する.
- 2) 写真を拡大・縮小して掲載する場合は, 縦横比が変わらないように注意する.
- 3) 大きな表は, 反時計回りに 90 度回転させて, 表の上を左にしたレイアウトにするか, 分割して複数ページに掲載する. 縮小して 1 ページ内に収める場合はフォントサイズに注意する.
- 4) 図, 表は, 別々に通し番号 (章番号-章内の通し番号. 例. 図 2-1, 図 2-2, 表 3-1 等. 英文の場合は, Fig.2-1, Fig.2-2, Table 3-1) とタイトル (図の場合は図の下中央, 表の場合は表の上中央. 2 行以上に亘る場合は, 左詰め) をつける. 原則として, タイトルのフォントサイズは本文と同一とする.
- 5) 図, 表の番号を本文の該当する箇所に明示する.
- 6) 研究に用いた調査用紙, 説明書, 同意書, 尺度の利用許諾などは必要に応じて巻末に付録として添付する.
- 7) 付録の頁は, 下中央 (下端から 5mm) につける. 本文と区別するためにページ番号は付録 -1 のように表記する.

## 7. 統計解析

- 1) 統計検定では危険率のみではなく, 検定力, 効果サイズを記載するのが望ましい.
- 2) 同一被験者から繰り返しデータを取得した場合の repeated measures 分散分析を用いた場合は, 自由度の補正 (Huynh-feldt, Greenhouse-Geisser など) を行い, 修正前自由度, 修正後の  $p$  値および  $\varepsilon$  の記載が望ましい.

# 博 士 論 文

(令和 年 月 日提出)

論文題目

---

---

※ 題目に副題が付く場合は、  
全角ダッシュ（一）で括ってください。

大学院医学研究科

産業衛生学専攻

領域

---

学生番号

氏 名

---

指導教員

---

産業医科大学大学院

論 文 要 旨

大学院医学研究科 産業衛生学専攻 博士後期課程

学生番号 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_

論文題目(欧文の場合、和訳を付すこと)

論文要旨

【目的】

- ※1 日本語で、800字程度(A4 1枚にまとめること)。
- 2 項目は【目的】→【方法】→【結果】→【考察】→【結論】の順とする。  
(MS明朝、10.5ポイント)
- 3 論文題目が欧文の場合には、下に( )書で和訳を付すこと。
- 4 横書で、文書作成ソフトで作成すること。

【結論】

## 第1章 緒論 または はじめに

1-1 背景	1
1) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	1
a) ○○○○○○○○	1
b) ○○○○○○○○	1

(注)

- ・ 先行研究のレビュー（分かっていることのまとめ）を記述すること
- ・ 分かっていることを明確にするとともに、仮説設定／リサーチ・クエスションの提示すること

1-2 目的	2
1) ○○○○○○	2
a) ○○○○	2
b) ○○○○	3
2. ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	4

(注) 2つ以上の研究論文を並列でまとめる場合には、「1-2 目的」内にそれぞれの目的を1-2-1, 1-2-2 など節として記述する。

以下、項、節…として、同様に記述する。

## 第2章 方法

## 第3章 結果

(注) 2つ以上の研究論文を並列でまとめる場合には、「方法」と「結果」の章についても、並列の目的に沿ってそれぞれの方法と結果を項立てして記述する。

## 第4章 考察

並列研究の結果を総合し、考察を記述する。また、研究の内容や結果の学術的、社会的意義、今後の発展性に対応する産業医学・産業保健への実践についても触れる。

## 第5章 結論 または まとめ

利益相反

謝辞

引用文献

付録（依頼状、同意書、質問紙、インタビューガイド、一般常識の科学的情報などを

含むリストをつける)





実践についても触れる。

<二行アキ>

## 利益相反

本研究には開示すべき利益相反はない

## 謝辞

## 引用文献（行間12pt）

1. Friedman M & Rosenman RH (1974): Type A/ Behavior And Your Heart. 1st edition. Alfred A. Knopf Inc., New York. 河野友信監修, 新里里春訳 (1993), タイプ A 性格と心臓病. 創元社, 大阪 p65

## 付録

リストを最初に付ける。





